

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らし暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着したサービスを提供できるよう グループ内において運営理念をつくりあげている。	○	抽象的となりがちな理念を更に現場に即したユニット独自の理念として具体化し、短期目標・中期目標を掲げ、到達目標と課題を明確化していく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に運営理念を念頭に置き、日常の業務にあたっている。また、ホーム内のみならず、他部署にも運営理念が掲示しており、法人グループ全体で取り組んでいる。	○	全職員が十分に理解し、実現に取り組めるよう、日常的に話をしながら取り組んでいく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	広報誌の発信や、運営推進会議、介護教室等を通じて家族や地域との連携を深めていくよう努める。		
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日用品の買い物や、散歩等、外出の機会を設けるようになっている。顔見知りの方々が増え、挨拶を交わすことができるようになってきた。	○	出前や、食材の配達サービスの利用。母体組織と連携をとりながら、グループホーム事業として独立できる部分などがあれば、実践できるよう見直す機会を作っていく。備品や食材等の発注ルートの拡大も検討していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市との協賛による地域行事(夏祭り)を行なっている。また、市のデイサービス事業へボランティアで参加している。	○	地域美化活動への参加。隣組行事(敬老会)等への参加。グループホーム世帯として地域隣組への参加。ホームイベント等のへの参加も呼び掛けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	定期的に介護教室を開催し、地域高齢者等に参加を促している。		
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を重ねていく毎に、自分達のホームに対する客観性と自己評価への補強となっている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に評価についての報告や話し合いを行い、内容を議事録にて伝え、サービス向上につなげている。	○	会議内容についての全職員の把握が不十分である。職員全員で取り組んでいけるよう話し合う機会を設けていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	適時、市町村と連絡・相談し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホームミーティングなどの際、話し合う機会を設けるようにしている。職員の目に付く所にその要綱を掲示、意識付けを図っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等にて定期的に学習する機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	出来ている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	契約時に苦情等の窓口を明示しており、日常的に職員や管理者に苦情等を表せる機会を設け、迅速に反映している。又、介護相談員を受け入れており、外部者へも苦情等を表せる機会を設けている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	概ね出来ている。面会時の近況報告、必要に合わせた状態報告等を行なっているが、何らかの変化や問題が起きた時の相談・報告が中心になりがちである。	○	広報誌などに添え、ホームでの出来事や、暮らしぶりを伝えたり日常の写真などを送付する等、日常的な何気ない触れ合いも大切にしたい信頼関係の構築が望まれる。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	管理者を窓口としている。入居時の説明事項としての文書、及び、口頭による。	○	苦情、相談等をサービス向上のための大切な機会として前向きに捉え、相談しやすい配慮や体制を構築していく。ケア担当者がその窓口となれるようより一層の家族との信頼関係の構築に努める。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	ミーティング等において、職員の意見や提案の機会を設け、ケアに反映していくよう努めている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	行事時の人員調整や外来受診時の人員確保等、極力調整に努めている。	○	管理者をシフトに組み込まず、必要時に応援出来るようにしている。パート、ボランティアスタッフ等の受け入れも検討していきたい。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	出来ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>幅広い年齢層のスタッフを採用しており、スタッフ間の関係も比較的良好に互いに研鑽している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>当然のこととして日常から話し、業務だけでなくプライベートな面でも研鑽できるよう期待している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部、内部研修等の機会を設け、自己啓発、質の向上を図っている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者においては、同業者と交流する機会を持っておりサービスの質の向上に向け取り組んでいる。</p>	○	<p>他職員においても、他グループホームとの交流の場を設けたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩時間と場所の確保。又、日常的に職員との会話の中で、悩みやストレスが解消できるよう努めている。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>日常的な会話や適時の面接を実施。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用に至る前に、施設見学や家庭訪問、必要に合わせての面談の機会を設け、信頼関係の構築と意向の把握に努めている。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用に至る前に、施設見学や家庭訪問、必要に合わせての面談の機会を設け、信頼関係の構築と意向の把握に努めている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>努めている。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用に至る前に、施設見学や家庭訪問、必要に合わせての面談の機会を設け、信頼関係の構築に努めている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人が主体となれるような場面づくりを心掛けている。</p>	<p>○ 人生の先輩として、「教えていただく」との姿勢を常に持ち、ケアにあたるようにしている。実際に教えていただくことも多々あり、暮らしに反映するように努めている。「さびしい介護」をいつも念頭に置き、自信へと繋がるように支援している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	介護計画を定期的に説明することにより、少しずつご家族の計画内容への理解が増し、意見が導き出せるようになってきた。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	認知症という病気を家族に理解していただくよう努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	必要に合わせ家族の協力も得ながら可能な範囲で支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わら合い、支え合えるよう努めている	概ね、利用者間関係の把握は出来ている。生活場面を通じ、利用者同士が共に支え合って暮らしていけるよう業務改善や個別プランニング等も行なっている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所と連携を図りながら、継続的な関わりを大切にしている。	○	退居された方々に対しても、積極的にホームイベント等への参加・呼び掛けを行なっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意思や意見を汲み取り、暮らしに活かし、うまく表現できない方に対しては家族や関係者(近親者)の方々からの情報収集に努めている。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時のアセスメントは基より、支援関係を通じ、バックグラウンドアセスメントを追及している。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々のアセスメント、支援関係を通じ追求している。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日常の会話や訪問の際に要望を引き出せるようコミュニケーションを図っている。</p>	<p>皆のアイデアが反映されるよう意見ノートの作成も検討。</p>
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のモニタリング、必要に合わせた見直しを行なっている。ケアカンファレンス後の書類作成に時間がかかっていたが、ケアプランカレンダーを作成したことで少し改善しつつある。</p>	<p>よりよいケアの反映を図る為、様式の変更も検討。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の見開きに介護計画をファイルし、プランに即した記録とケアが実践されるよう努めている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の希望時に、食事を共に摂れるよう提供したり居室や宿泊室を使用し共に宿泊できるよう支援している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の消防署協働による総合防災訓練を実施している。また、新聞や市報、本人との会話からも周辺資源、行事等の情報収集を行い、可能な範囲で対応している。	○	今後も周辺資源の把握に努め、日常的に利用者、職員が訪れる機会をつくり、認知症やグループホームに対する理解と協力を得ることができるよう働きかけていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前後の継続的なケアの確保。入居後の地域での多様な資源を活用した暮らしと、退居時の支援等、あらゆる段階で他サービス事業所と相互協力を図っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現段階では対応事例はないが、必要に合わせ対応できる体制をとっている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり利用者や認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に合わせた協力医療機関を確保できている。		
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を週に1日配置しており、日常の健康管理等についての相談をしている。		
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	出来ている。管理者を窓口としてメディカルソーシャルワーカー、家族との情報交換にも努めながら調整を図っている。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	必要に合わせ、面談や担当者会議の機会を設けている。また、日頃からの家族・かかりつけ医との情報交換に努めている。		
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来ている。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住の際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者、家族の意向を踏まえながら退居後の生活環境や介護の継続性に充分配慮し、退居に必要な援助を行なうようにしている。また、在宅への退居事例で、その意義をチームで実践し認識できた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	見守りを確保する為に、個人記録を入居者様の目の届くスペースで書かざるを得ない現状(実情)にある。	○ 記録時間の確保。
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた納得しながら暮らせるように支援している</p>	主体性を尊重し、その人らしさを引き出せるような言葉掛け、自己決定、回想を促す働きかけを日常的に行なっている。	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	可能な範囲で心掛けているが、共同生活が故、個々のニーズに対応できない時もある。	○ アセスメント、支援関係を通じ、その人らしさを追及し、必要に合わせ業務改善等も検討している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	訪問理美容や近所の美容室を利用している。個々の習慣や希望の導き出しまでには至っていない。	○ 本人の習慣や希望を把握し、家族の協力のもと支援していく。
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	個々の得意とする作業の役割分担により、毎日の食事準備作業を行なっている。	○ 味付け、味見。簡単な調理、ランチ用マットの使用。
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	利用者の意見、要望等を毎月食事ミーティングにて提案し、その後、栄養士により献立を立案。日常の食事の他、季節メニューを取り入れたり、誕生会では誕生者と共にメニューを考えたりしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ケアプランに即し、対応している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	おおよその時間帯の設定はあるが、希望や必要に合わせた支援を到達目標として、業務改善等も視野に入れた個別プランニングへ取り組んでいる。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	アセスメント、支援関係を通し、生活習慣や睡眠のパターンの把握に努め、必要に合わせ主治医へ相談もしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	残存機能や手続き記憶を大切に、生活の中で役割や出番として見出せるよう働きかけている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力量に応じた金銭管理支援を行なっている。自己管理が困難な方に対しても、その代替方法を家族と相談し、定期的にその出納を報告。買い物の際は本人が金銭のやり取りが出来るよう支援している。	○	新聞代の集金等、現段階ではスタッフが支払い代行しているが、自分で支払う事で満足感を得られる方もいるかもしれない。その人の意向を尊重しながら検討していきたい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の意向は基より、表情や仕草などからも意向を汲み取り、可能な範囲で支援している。	○	
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事委員、担当(月)による年間計画をベースに季節に合わせた企画等を行なっている。必要に合わせご家族の協力もいただき対応している。	○	スタッフ側(目線)の企画とならないように企画体制の見直しを行い実践する途上である。本人や家族の要望等を尋ねる機会を日常的につくり、個々のニーズを把握しながらその実現に向けて取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ている。利用者の厚意による電話賃の要求への対応に困っている。	○	更に、個々の持てる力を見直し、大切な人とのつながりを保ち続けていけるよう支援していきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室での談話、家族宿泊室による宿泊や食事等も提供できる体制である。訪問者には湯茶対応し歓迎。面会時間等も幅広く設定。開かれたホームを目指している。	○	日常的に自由に利用できる空間づくり、インターホン、スタッフが見に行く。(もっと自然な雰囲気でも対応できるように配慮していきたい。)
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の内容と、その弊害を認識している。やむを得ない場合もその代替性について検討している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全を追求しながら、自由な暮らしを支えていく」というスタッフ共有の認識があり、やむを得ず鍵を掛ける場合にもその根拠が明確である。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在や安全確認を行ないやすいように、居室ドアを少しあけておくこともある。	○	安全性を追求していくと共に、プライバシーの配慮も視野に入れた更なる個別ケアへ取り組んでいく。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態を把握しながら、安全性を確保している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者様も含めた防災訓練を定期的実施。明日への一報、励行。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	医療連携体制の導入。グループ内の診療所(24時間体制)によっても、緊急時対応は確立されているが、看護師、医療職に頼る面が多く緊急時の対応に不安を抱えているスタッフも少なくない。	○	勉強会等を定期的に行い、その知識が実際に活かせるものとなるよう取り組んでいきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に総合防災訓練を実施しており、マニュアル整備している。	○	地震、水害等に対する具体的な取り組みが不十分である。利用者・職員が避難方法を身につけるための訓練が必要である。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日常的に近況報告は基より、状態の変化や異変の発見に努め、チームでリスク対応に関する情報を家族と共有している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り、記録等による情報のバトンタッチがなされている。スタッフにより判断に若干のバラつきが見られることもある。	○	生活全般における日常的(一般的)な状態の把握に努めていく。バイタル面では、臨検や観察の指標となる部分を明確化し、共通認識を深めていく途上である。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が本人の心身の安定のに繋がるものとしての意識を常に持ち、症状の変化をいち早く察知できるよう努めている。又、家族や医師との連携を図りながら、使用薬剤の適切な見直しを行なっている。用法・効用等についても概ね把握出来ている。内服チェック表を活用し、利用者と共に薬数の確認を行なっている。薬の説明書も定期的に確認している。	○	内服困難な利用者に対しては細心の注意をもち、ケアにあたっていく。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排泄が望めるよう、個々の生活習慣に配慮し、必要に合わせ主治医に相談もしている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	出来ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	概ね、出来ている。 必要に応じ家族の協力を得ることを主治医へ相談。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	グループ内に感染対策委員会を設置し、毎月のモニタリングやマニュアル等の整備等により具体的な予防策、早期発見、対応に向けた体制がとられている。	○	マニュアルを踏まえた上で、更に現場に即した具体的な取り組みがなされている。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員間での意識や方法にズレが生じやすい点である為、全職員が日々守っていけるような具体的な取り決めを検討・実行している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	地域特性を活かし、郵便受けや表札等、木製で手作りし、暖かみが増すよう努めている。時折、利用者と共に模様替え等も行なっている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ケア担当者を中心に個々のアセスメントを追求しながら、行なっていく途上である。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各場所にソファや一人掛け椅子を設置。活動スペースが食堂中心になりがちである。	○	年末の大掃除に際し、Dルームの模様替えを試みた。家具の配置や装飾品等、利用者の意見を採り入れレイアウトした。自然と人が集まるようになり活動スペースの拡大へと繋がった。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の段階で、なじみの物を持ち込み、以前の生活が少しでも継続されるよう働きかけている。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温湿度計を設置。利用者からの訴えは基より、表情、仕草などにも配慮し、職員感覚の空調とならないよう心掛けている。	○	毎日、早朝の新鮮な空気を取り入れ、換気に努めている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すり、バリアフリーなづくりは勿論のこと、出来る限り車イスやシルバーカーなどの邪魔にならないように広く、スペースを確保している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	アセスメント表を使用し、一人ひとりのわかる力が全職員に把握されるよう努めている。	○	一人で出来る事への支援を大切に。さびしい介護を常に念頭に置き、少しでも自分で出来るように導ける黒子のケアを行い、自信へと繋がるよう支援している。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	階層式のフロアの為、外回りの活用が困難となりがちであるが、ベランダは広く確保しており、多様な生活空間である。洗濯物を干したり、花や野菜類の栽培、毎年恒例の花火大会等、季節に合わせた催しも行なっている。天候の良い日等はバルコニーでの日光浴や植物観賞等も行なっている。	○	バルコニーでの食事（誕生会など）、イルミネーション。大型ポットを利用し、果実類の樹木を栽培し、収穫を楽しみたい。

.サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の 2/3 くらいの
			利用者の 1/3 くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の 2/3 くらいと
			家族の 1/3 くらいと
			ほとんどできていない

グループホーム 大川

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="radio"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くない
100	職員は、生き生きと働いている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	職員の 2/3 くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の 1/3 くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の 2/3 くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の 1/3 くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	家族等の 2/3 くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の 1/3 くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

その人の好きな事、得意な事に目を向け、それが暮らしの中で役割や出番として反映されるよう支援しています。特に、食事場面においては、毎日皆で協力し合いながら、楽しんで行なっています。